

群)の属性, 診断時の症状・所見, 治療経過を比較した。PSL 漸減中に疼痛症状が増悪し, CRP の上昇を認めた場合, 再燃と判断し, 症状が改善し PSL を中止して1~2カ月後の外来で, 症状がなく, CRP 陰性の場合, 寛解と判断した。

【結果】 2群の男女比, 発症時平均年齢, 平均体重に有意差はなかった (R群: 女6, 男2, 76 ± 7.7 歳, 48 ± 8.0 kg, NR群: 女5, 男3, 76 ± 5.7 歳, 46 ± 6.6 kg)。R群における寛解までの治療期間は平均 15 ± 6.3 カ月, NR群の治療期間は平均 26 ± 6.2 カ月。診断時の CRP, MMP-3, ヘモグロビン, 血小板数は2群で有意差はなく, 発熱, 体重減少, 末梢浮腫を有する割合にも差はなかった。2群とも PSL 開始量の中央値は 15 mg で, 体重当たりの PSL 開始量の平均値は 0.3 ± 0.03 mg/kg であった。治療開始後, 初めて PSL を減量するまでの期間, CRP 低下率にも差はなかった。R群における経過中の再燃は3例 (38%) で, NR群の8例 (100%) に比べ有意に低値であった。

【考察】 R群はNR群に比べ再燃する割合が低かったが, 診断時の症状や所見, PSL 開始量や PSL の反応に差はなかく, 寛解の予測因子を探することはできなかった。PSL 開始量について多くの報告があるが, 日本の患者は欧米に比べ体重が少なく, 欧米のガイドラインをそのまま応用してよいか検討が必要と考えている。

P1-11.

同種造血幹細胞移植の GVHD に特異的な exosomal miRNA の解析

(大学病院: 血液内科学分野)

○吉澤成一郎, 斎藤 優, 後藤 守孝
赤羽 大悟, 大屋敷一馬

(大学病院: 先端分子探索寄附講座)

梅津 知宏, 小林 千晶

(大学病院: 医学総合研究所 分子腫瘍研究部門)
大屋敷純子

【背景】 同種造血幹細胞移植後の特有の合併症である移植片対宿主病 (Graft versus host disease ; GVHD) は移植片中のドナーリンパ球が患者組織を攻撃する免疫反応である。一方, 移植後早期から後期に起こり, 重症化すると致死的となりうる。近年, 急性

GVHD において, 特定の血清 microRNA が発症予測マーカーであることが報告され注目されている (Xiao B. Blood.2013 ; 122 : 3365-75.)。今回,我々は, late on set GVHD に関わる exosomal miRNA の発現プロファイルについて解析を行った。

【方法】 Late on set GVHD を発症した5症例 (gut 2例, Liver 2例, skin + gut 1例) と acute GVHD 5症例, non-GVHD 5症例 (計15症例) の患者血漿から, Exosome isolation kit (invitrogen) を用いて exosome 分画を回収した。各検体については, Late on set GVHD 群では各発症時期の保存検体を, acute GVHD 群, non-GVHD 群では day40 前後の保存検体を使用した。これらの血漿 exosome から RNA を回収し, exosomal miRNA のプロファイリングを TaqMan Low-Density Array (TLDA; Life Technologies) を用いて解析した。

【結果・考察】 miRNA プロファイリングの結果, GVHD 発症群と非 GVHD 発症群で exosomal miRNA の発現パターンが異なり, さらに acute GVHD 群と late on set GVHD 群間においても, 有意に発現上昇する miRNA, 発現低下する miRNA の個別化が可能であった。よって, これら exosomal miRNA の発現パターン変化をより詳細に解析することで GVHD の重症化における早期診断マーカーとなりうる可能性がある。

P1-12.

精液からの HIV 除去における密度勾配溶剤の影響

(社会人大学院博士課程4年産科婦人科学分野)

○嶋田 秀仁

(産科婦人科学分野)

久慈 直昭, 伊東 宏絵, 井坂 恵一

【目的】 HIV 陽性精液から洗浄によって HIV ウィルスを希釈除去する場合, 市販されている silane-coated colloid silica gel は, 従来用いられてきた PVP-coated colloid silica gel (Percoll) より洗浄効率が低いと言われている。本研究では, 市販密度勾配溶液 (Isolate) と Percoll のウィルス洗浄効率の差について解析を行った。

【対象と方法】 HIV 陰性ボランティアからの提供精子2検体に濃厚 HIV 液を混和, この濃厚 HIV 液添